

会 議 録

会 議 の 名 称	令和5年度第2回行田市総合教育会議
開 催 日 時	令和6年1月26日(金) 開会：午後1時15分　閉会：午後3時10分
開 催 場 所	行田市産業文化会館　2階　第2会議室
出席者(委員) 氏 名	行田邦子市長、渡辺充教育長、鹿山高彦委員、 大澤恵子委員、大竹洋平委員、大木華子委員
欠席者(委員) 氏 名	なし
事 務 局	学校教育部：小池学校教育部長、石崎学校教育部次長兼教育指導課長、 岡部教育総務課長、嶋田教育総務課主査 生涯学習部：中村生涯学習部長、野口生涯学習スポーツ課長 総合政策部：岡登総合政策部長、諸貫参事、川上企画政策課長、 伊藤企画政策課主幹、進藤企画政策課主任
会 議 内 容	・議事　(1) 学校再編計画見直しの進捗状況について (2) 特色ある教育の推進について ・その他
会 議 資 料	・会議次第 ・行田市総合教育会議構成員名簿 ・資料1-1　行田市義務教育学校設置に向けた再編計画〈骨子編〉 ・資料1-2　別添資料 ・資料2　特色ある教育の推進について ・文化団体連合会等加盟団体一覧 ・行田市教育大綱(R3-R7) ・行田市総合教育会議設置要綱
そ の 他 必 要 事 項	傍聴者　2名

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司 会	<p>1 開会</p> <p>2 市長あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次第の「3 議事」に入る前に、会議の公開・非公開に関する取扱いについて確認させていただく。本日の会議では、個人情報を取り扱う予定がないことから、行田市総合教育会議設置要綱第6条に基づき、公開とさせていただく。また、会議録は、発言者名を明記の上、要点筆記で作成し、市政情報コーナー及び市ホームページにおいて、後日公開させていただく。 ・ それでは、本日の「議事」に入る。要綱第4条第1項の規定により、会議の議長は市長が務めることとなっていることから、ここからは行田市長に進行をお願いする。
議 長	<p>3 議事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ それでは、暫時、議長を務めさせていただく。 ・ 次第に基づき、順次進めさせていただく。 ・ 次第3「議事」の「(1) 学校再編計画見直しの進捗状況」について事務局より説明をお願いする。
事 務 局	<p style="text-align: center;">＜資料1－1及び1－2により詳細説明＞</p>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ ただいまの説明に関し、委員の皆様から意見を聞かせていただきたい。
鹿山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ キーコンセプトに書かれている「子どもたちのウェルビーイング」を向上させることについては、非常に大切であると思うが、さらに言えば、健康的な学校給食の提供などの食育の問題についても非常に大切なものであると考えている。
教 育 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食育については、教育としてできるだけ取り入れていきたいと考えている。
大竹委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「こどもまんなか」の視点に立つという点については、子どもだけでなく先生の指導力や保護者の見守る力が大切になると感じている。特に家庭の協力がとても重要だと思う。

	<p>また、特色ある学校について、特色の部分が具体的なキーワードで出てくると、「行田の学校と言えば〇〇」のようにイメージしやすくなり、良いものになっていくと思う。</p> <p>最後に、学校区域が広がるが、小学生はスクールバス通学で、中学生は自転車通学なのか、どのように考えているか伺いたい。</p>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> 市としても、子どもたちを支えるご家庭のサポートを行わなければならないと思う。また、スクールバスの運行についても今後詳細を詰めていかなければならないと思っている。
教 育 長	<ul style="list-style-type: none"> 現在の小学校においても、一定の距離で基準を定めてスクールバスを運行しているので、同様の対応となると思う。
大木委員	<ul style="list-style-type: none"> 多様性の理解も必要であると思うが、支援学級についてどのように考えているか伺いたい。私見として、支援学級においても「中1ギャップ」があると感じている。中学校へ上がると求められる難易度も高いことも要因の一つであるが、小学校と同等の支援を中学校に上がった際に受けられるのか心配と感ずることが多い。今後の学校再編成において、こうした「中1ギャップ」を解消できたらありがたいと思う。 もう1点として、以前に学校再編成が上手く進まなかったと思うが、今後、新たに学校再編成を進めていくにあたり、どのようなことが困難であるか、また、私たちがどのようにお手伝いできるのか聞きたい。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> 2点目について、答えさせていただく。以前、義務教育学校の議論をしていた時は、子どもの人数が少なくなったため統廃合をしなければならないという、少し後ろ向きなスタンスであったと感じている。 しかし、子どもの人数の減少等の現実的な問題とともに、教育の質と内容の議論が重要だと認識している。議事の(2)で議論させていただくが、教育委員の皆様には、義務教育学校において、どのように子どもたちの学ぶ環境を作ることができるのか、特に教育の内容について意見をいただきたい。
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> 1点目の支援学級について、答えさせていただく。確かに委員のお話のとおり、現在、小学校から中学校への進学は一つの区切りであり、学習内容の難易度上昇や教科担任制への移行、人間関係の変化などにより、「中1ギャップ」に悩むケースもある。

<p>大澤委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ しかしながら、義務教育学校となると、9年間児童・生徒が同じ施設で学ぶことになる。そのため、先生についても9年間を通して子どもを指導することができ、支援学級の子どもたちの特徴や必要な支援についても、スムーズに共有することができるので、手厚い支援ができるのではないかと考えている。 ・ 小中一貫教育においては、先生方も義務教育学校のメリットを十分に理解し、生かしていく必要があるため、先生の質も非常に求められると思う。 ・ また、部活動については、先生方の負担軽減のため、近年外部指導者の利用なども課題となっているが、こうした課題についても考えていく必要があると思う。
<p>議長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私としては、義務教育学校になることによって、部活動について大きく改善していくと期待している。部活動については、次の議題においても議論できればと思う。 ・ それでは、次の議題に進ませていただく。次第3「議事」の「(2) 特色ある教育の推進」について事務局より説明をお願いします。
<p>事務局</p>	<p style="text-align: center;">＜資料2により詳細説明＞</p>
<p>議長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 義務教育学校は教育課程の特例のため、市教育委員会の裁量の幅が広がると認識しているが、逆に特例があっても順守しなければならないものはなにか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 義務教育学校については、学校教育法第49条に規定されているが、その中で、現在の小学校にあたる6年間を前期課程、中学校にあたる3年間を後期課程とし、これを変えることはできないとされている。 ・ また、学校教育法施行規則の中の学習指導要領では、各教科に定められた授業時数が記載されている。その中で、例えば、小学校1年生が年間850時間、小学校6年生が年間1,015時間、中学生は1,015時間となっており、これを遵守する必要がある。 ・ ただし、独自教科等については、他の教科を含めその授業時数に複合される扱いとなるが、あくまでも学習指導要領に準拠して進めていく必要がある。

議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ なお、授業時数の1単位時間は小学校が45分、中学校が50分となっており、基本的に大幅な変更は認められていない。 ・ 前期課程6年、後期課程3年は変えることができないとのことであるが、学年単位の区切りとして、例えば、4年・3年・2年などに変えることはできるという認識でよいか。
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> ・ そのとおりである。その地域の特性や子どもたちの実態に合わせて、学年の区切りを自由に変更することは可能である。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ それでは、皆様からご意見をいただければと思う。
鹿山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 独自教科を設定することができるということは素晴らしいことだと思うが、以前にこれを明確に示さなかったことが、失敗してしまった要因の一つに感じる。 ・ 独自教科として、個人的な意見が何点かある。一つは、「スーパーサイエンス科」である。昨今、理科離れが激しいが、世の中が変わる際には科学技術の進歩が必要である。 ・ 次に、「ロボット科」である。現代においては、プログラミング技術が必要と考えるが、漫然と技術を学んでもあまり習得できない。そのため、明確な目的としてロボット技術の習得が必要と考える。 ・ 最後に、生きる力の習得という観点で、「資産運用科」である。これからは、資産を自分で作り自分で増やしていく時代であると感じている。そのため、株式や金融の仕組み、それらのリスクなどを子どもたちに伝えていく必要があると考える。
大木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ ふるさと科については、郷土博物館での体験学習など既にプログラム化されている取組もあるので、素晴らしいと思う。行田が魅力的なところであると子どもの頃から実感できることは良いと思う。 ・ 英語科についての意見であるが、小学校低学年のうち、英語で歌ったりゲームしたりと楽しく学ぶことができるが、学年が上がると単語や文法などを学ぶ必要が生じ、そこについていけない子どもが出てくると感じている。文法等を学ぶことは必要であると思うが、まずは外国の方とコミュニケーションが取れるなどの英語を学ぶための動機付けが重要であると認識している。そういう意味では、イングリッシュキャンプや外国の方とオンラインで交流することなど、日常的に英語を体験することは素晴らしいと思う。

<p>議長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ しかし、こうした取組を行うことで、英語教員の負担が増えてしまうことは避けてほしいと思う。 ・ 私は、行田はふるさと感じる素材がたくさんあると思っているので、学校教育の中でしっかりと自分のアイデンティティを意識しながら学んでほしいと考えている。また、先生方にも行田の歴史・文化をしっかりと学んでいただきたいと思う。 ・ 英語については、私自身、いきなり使ったことのない言語の文法を学ぶことはつまらないと感じた経験がある。そのため、子どものうちから日常会話で英語を使うことで、その後の文法や単語を学んでいくといった英語を学ぶ上での動機付けになっていければと思う。 ・ しかしながら、ALTの先生と会話を交わしても、実社会の中で英語を使う機会がないとモチベーションがなかなか上がらないことが課題であると認識している。解決策として、観光ガイドを子どもに行ってもらおうといったことも考えられるが、他にも案があればぜひ意見をいただきたい。 ・ 最後に英語科の先生の負担について、事務局から説明をお願いします。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 義務教育学校となれば、小学校の先生で英語の教員免許を取得している方もいるので、その方にも一緒に手伝ってもらえるなどの対応も可能である。 ・ また、会話中心の英語教育となるように、英語教員の方に対してALTの先生も交えた研修会等の実施も検討している。 ・ 現時点では構想段階ではあるが、なるべく先生方の負担が軽減できるようにしていきたいと考えている。
<p>大竹委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園と連携した幼児教育については、重要であると認識している。年少のうちから、自身のアイデンティティは作られてくるので、幼稚園の時からALTの先生の生きた英語に触れることで、日本語と同様に自然と学んでいけるのではないかと思う。また、小中学校まで継続していくと行田の特徴的なものになるのではないかと感じる。 ・ 独自の科を設定することができるのは面白いと思うが、義務教育学校においてさらに意識してほしいのが、礼儀礼節の部分である。その上で提案したいのが、スピーチ科の新設である。プレゼンテーション能力の育成だけでなく、聞く側の態度などを教えることも重要である。 ・ 最後であるが、現在の子どもたちは習い事なども多く、睡眠時間が少ないと感じることが多い。そのため、学習する上での効

<p>議 長</p>	<p>果的な睡眠の取り方など、睡眠の大切さを学ぶ機会が必要であると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語教育に関しては、議会の承認が得られれば、市内すべての幼稚園で生の英語を学ぶ環境が整うので、幼稚園の皆様にもご協力をお願いしたい。 日本人に欠けていると言われているプレゼンテーション能力について、学校教育でも学ぶ機会があれば、社会人として国際社会で生き抜く力を養うことにつながると思う。 また、礼儀礼節の部分についても、日本人として、行田っ子としてのアイデンティティの確立のためにも、どういう形が適切かどうか難しいが、学校教育の中で見つけてもらいたい。
<p>大澤委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ふるさと科という言葉から「行田市歌」を連想した。ふるさと行田を想起させる歌であるので、こうしたものを活用しながら、子どもたちに行田を誇りに思う心の育成を行うことが重要であると思う。郷土愛を育むためにも、行田の豊かな資源を活用した教育を行っていく必要がある。 また、行田市歌だけでなく、「小中学生の歌」というものもある。現在は使われなくなってしまい残念であるが、もう少し学校で歌う機会が増えればと感じている。
<p>教 育 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 行田市歌などの歌については、今後校長会などで議論しながら、自主的に歌う機会が増えればよいと思う。 また、義務教育学校の特色ある教育については、常に見直しながらより良いものとしていき、細かい点も含めて、徹底的に説明しご理解をいただければと思う。 ある小学6年生の男子が英語の教科書を忘れてしまい、先生に注意された際に「oops. My mistake」と英語で返したというエピソードがある。このような対応ができるくらいの英語教育を進めていければと思う。
<p>議 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 私は、行田の児童・生徒数が今後維持されたとしても、義務教育学校に再編する意義があると考えている。教育の中身を充実させ、市民の皆様にご理解いただけるようにしていきたい。
<p>議 長</p>	<p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> その他として生涯学習に関して意見を伺いたい。 私は、行田を文化のまちにしていきたいと思っている。そのためにも、市民の方が生涯、芸術・音楽・スポーツだけでなく、

	<p>様々な文化活動をするための環境づくりにはどのようにしたらよいか、教育委員の皆様にご意見をいただきたい。</p>
鹿山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人的な意見であるが、行田市には大きな美術館がないが、郷土博物館において、有名な絵画展などを開催することができれば、市内外からお客が来るのではないかと思う。 ・ また、すでに退職された方の人材バンクのようなものを作り、放課後子ども教室や学童保育室、公民館などで、子どもたちへの技術の伝承などを行うこともよいのではないかと思う。
大木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化団体の一覧を見ると、高校生や大学生、若い社会人の方が活動できる団体が少ないと感じる。若い方が活動できる魅力的な活動があればよいと思う。 ・ また、市民体育祭についてだが、現在は一番活躍できる中高生が参加できないものとなっている。若い方が地域との繋がりを維持するためにも、こうした制度を変えていくことも必要だと感じる。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若い方の活動の場が大きな課題であると認識している。 ・ 市民体育祭についても、様々な方からご意見をいただいているので、多世代交流の場としてあり方を考えていければと思う。
教 育 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民体育祭については、体育協会と一緒にどのように盛り上げていくか、いただいた意見を参考に検討していきたいと思う。 ・ 若い方の芸術文化へのかかわり方については、今後研究していきたい。
大澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私は行田市文化団体連合会の副会長をしているが、高齢化に伴い団体数も減少しているのが現状である。また、文化団体連合会への加盟には、団体の会員数が10名以上でなくてはならないとなっている。こうした規定も変更するなどして、加盟団体を増やしていければと思う。 ・ 既存の団体事業においても、子どもたちが一緒に参加できるものも数多くあると思うので、こうした場所で子どもたちの発表の場を増やしていければよいと思う。 ・ 産業文化会館には、リハーサル室もなく、ピアノも一台しかない。また、オーケストラの機械も壊れており、活動する環境が整っていないと感じる。

議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民の皆様 1 人 1 人が楽しめる文化活動のために、行政ができることをしっかりとやっていきたいと思うが、ご指摘の産業文化会館などの環境整備についても、考えていきたいと思う。
大竹委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園の空き部屋などで、祖父母世代の方が子どもたちの面倒を見るなど、そうした世代間交流も大切だと感じる。 ・ 疑問として、文化団体連合会に加盟している団体の事業について、SNSなどで情報を発信しているのか。
大澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ チラシやケーブルテレビなどでお知らせ等はしているが、各団体でSNSを活用した情報発信をしているか把握はしていない。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行田市はLINEの登録数が3万人を超えており、非常に多くなっているのので、これを活用していければと思っている。
大澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報発信でいえば、以前に「はすやぐら」という生涯学習情報誌が各家庭に配布されていたが、現在は発行されていないと思う。どうなっているのか。
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在は、市ホームページや市報を活用しており、発行していない状況である。今後も市ホームページで発信していきたいと思う。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ それでは、以上で、本日の議事を終了させていただく。
司 会	<p>5 閉会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 以上で、令和5年度第2回行田市総合教育会議を閉会とする。
<p>〈閉 会〉</p>	